

AAC2006は、講演者にアスベストの危険性に関する最新で正確な情報を発表する機会を提供することにより、「アスベストは管理使用すれば安全である」と再保証するような産業側の宣伝を曝露することに成功した。会議への参加者の中で、アスベストとアスベスト含有製品の使用による長期の危害の可能性について幻想を抱いてバンコクを離れる者など一人もいなかった。会議主催者の一人であるソムキャットスリルタナプラク博士は、タイの代表者にとってこの会議が重要であることを強調して、次のように報告した。

「この会議以来、アスベスト問題について、タイの公務員、政府役人、および労働衛生専門家間で会合が持たれ討議がされてきた。われわれは、改善がなされ住民がアスベストの危険から守られるよう、七月の会議によってもたらされた勢いをさらに高めることを固く決心した。タイは、この会議にそのように多くの傑出した国際的専門家に出席いただき大変光栄であった。われわれは将来この世界のネットワークとともに活動することを期待している。」

AAC会議の参加者らは、初期防止の重要性と実地的な指針の適用を強調しつつ、アスベスト及びアスベスト含有製品の使用の全面的廃止を要求し、より安全な代替物質は入手可能であり、それらが使用されるべきことを指摘し、早い時期の疾病発見、適切な医学的治療、また政府の手当て及び補償請求への支払いを速やかに行うことの必要性を強調する「アスベスト及びアスベスト関連疾患をなくすバンコク宣言(付録D)」を採択した。

アスベストに関するアジアの取り組み

香港を拠点とする「労災被災者の権利のためのアジア・ネットワーク(ANROAV)」のサンジ・パ

ンディタ氏によれば、アスベスト問題は、産業事故や死亡、統制の欠如のようなアジアの人々が直面している共通の困難の縮図である。労働者のための「持続した全体論的な改善」のためには国際的なキャンペーンにリンクした草の根の動員が重要であるとして次のように述べている。

「アジアの労働者は、先進国の労働者がアスベスト完全禁止が導入される以前に経験したのと同じ苦痛を受ける必要はない。」

ANROAVはアジア中にアスベストの問題を知らしめるために働いており、日本の石綿対策全国連絡会議(BANJAN)や全国労働安全衛生センター連絡会議(JOSHRIC)のようなNGOによつて積み重ねられてきたアスベスト・キャンペーンの中で重要な役割を果たしてきた。医学や法律の専門家からの支援及び労働組合、環境、及び健康問題活動家との連携の必要性を認めつつ、ANROAVはGACC2004やAAC2006のような会議やその広いプログラムへの参加を通じてつながりの輪を培ってきた。産業側の宣伝に対抗してANROAVは職業的及び環境的なアスベストの危険についてアジアの主要言語で情報キャンペーンを展開してきた。

二〇世紀の間は、所得の最も高い諸国はまた最大のアスベスト消費国でもあった。二一世紀の最大の消費国は中所得の諸国である。このような消費のパターンのアジアへの移行は、アジアに対する警鐘であるとみなさなくてはならない。歴史が示すように、ひとつの国によるアスベスト禁止は単に問題を近隣の国に移すだけであり、産業医科大学(日本)の高橋謙教授によつてかつて(GACC2004で)提案されたような整合性のとれた戦略が必要である。効果的なものにするために、アジア・アスベスト行動計画は、全ての種類のアスベストへの曝露を防止するための措置、危険な技術の移転を防ぐための各国同時のアスベスト禁止、及び、とられた行動と得られた進捗の監視を含むべきである。